

## 【優秀賞】

### 今からじきるいふ

仙台市立郡山中学校  
二年 辻井珠希

私に通っていた小学校は、目の前に広瀬川がありました。小学校低学年のころから、広瀬川の生き物を調べたり、水質調査などの学習、広瀬川花火大会、広瀬川で遊ぼう！などのイベントで、たくさん思い出があります。広瀬川は、仙台のシンボルとして多くの市民に愛されていて、「景観がすばらしい名水」にも登録されています。

そんな広瀬川で小学六年生のとき、学年全員で、ゴミ拾いをしました。たばこの吸いガラやポリ袋、ダンボールなど、私達の身の回りのごみがたくさん捨てられていました。川へのポイ捨ては景観悪化や悪臭、水質汚濁などの河川環境悪化を招く原因の一つであり、河川利用を阻害し、利用価値を下げています。また、街でのポイ捨ては排水溝を通じて川へ行きます。そのごみは川を流れて海へ行きます。そうすると、海の魚がそのごみを食べてしまいます。もしかしたら、私達が普段食べている魚はポイ捨てされたごみを食べているかもしれません。つまり、川でのポイ捨てだけでなく、街でのポイ捨ても、川、海、私達の生活にまで悪影響が及んでいくのです。自分達の生活、健康にまで影響があると思うとゾッとします。しかし、私達が川に及ぼしている悪影響は、このポイ捨てだけではないのです。

川が汚れてしまう原因には、大きく二つがあります。一つ目は自然系という自然が及ぼす影響。しかし自然系は川が汚れる大きな原因ではありません。川を汚している大きな原因は、私達人間が生活していく上で川を汚してしまうもの、人為的な汚濁です。これには家の台所、お風呂、トイレの汚れが原因の生活系、工場などの排水が原因の事業系、家畜のフンや農

地の肥料などが原因の農業系、道路につもった車の排ガスなどが原因の面源系、その他川の中に捨てられたごみなどが原因となるもの、大きく五種類の原因があります。この、人為的な汚濁は、川の汚れの九割であり、特に生活系は八割を占めています。川の汚れを減らすということは、浄水施設を造るなど、簡単じゃないし、私達には出来ません。私達に出来ることは、汚れを増やさない、ということなんです。川の汚れは自然の中で流れていくうちに川の中の生き物などによって分解されてきれいになっていきます。しかし、川の中に汚れがたくさん入ると分解しきれずに川は汚れていくのです。

私達が川の汚れを増やさないためにできることは、難しくありません。普段の生活をほんの少し変えるだけで良いのです。まず、川の汚れの八割を占めていた生活系は、その汚れを流さないことが最も効果的です。油污などは紙で拭いてから洗うこと。みそ汁や麺類の残ったつゆを流さないこと。シャンプーや洗剤などを使いすぎないこと。三角コーナーやろ紙袋などで、食品くずが流れないようにすること。簡単に言ってしまうと、食べ残しを減らす、きれいに食べる、ということをするれば、洗剤も減るし、油などが流れてしまう心配もありません。その他、ごみなどは、絶対に川に捨てないこと。これも重要です。

この行動がめんどうくさいと思った人もいるかもしれませんが、しかし、この行動は、川のため、とは言っても、最終的には私達のためなのです。私達が好きなときにごみを捨てて、適当に水を使っていれば、どんどん川は汚れていきます。そうすれば、楽しい思い出だった、川のイベントがなくなり、子供達が自然と触れ合う経験が減り、最悪の場合魚が食べられなくなるかもしれません。今は、川のことを考えなくても生きていけますが、何かあつてからでは遅いのです。少しの行動で未来が変わるかもしれません。私は、行動に移してみようと思います。